

F-19 食生活の合理化に関する研究(その3)
同志社女大家政 紀 嘉子

目的 前報にづづいて今回は、食品購入管理の仕方と購入の経日的変化(食品購入管理の過程)から把握して分類を行ない、更に、購入管理の結果と過程を同時に観察することによって、食品購入管理方式を総合的に分析する。又、食品購入管理方式別に食生活内容の比較を行ない、その良否について検討を試みる。

方法 調査方法は既報の通りであるが、京都では更に訪問留置法による糧食状況調査を行なった。栄養と食糧構成について「日本人の栄養所要量」：厚生省(昭和44年)、「年齢、性、労作、妊娠、授乳婦別食糧構成」：寺塚氏等(昭和45年)と照会した。

結果 1) 食品購入管理の仕方と、購入の経日的変化(購入管理の過程)から把握すると、①波動購入型、②恒常購入型、③混合購入型に分類出来る。この三つのタイプは、札幌にも、京都にも存在している。

2) 購入管理の結果と過程を、総合的に観察する在庫-経日的アプローチによって、消費、購入、在庫の関係、意味が判明した。

3) 食品購入管理方式別に、食生活内容を比較すると、①魚、野菜、果実の単位栄養当りの金額は、消費購入型が安い。②熱量、蛋白質は一応充足しているが、貯蔵購入型に欠食率が高い。③食糧構成のバランスは、消費購入型の方が良い傾向にある。

4) 近年、貯蔵購入型が良いといわれているが、小教例の範囲ではあるが、経済合理性、栄養管理の点から、消費-恒常購入型が良い傾向にあるので、更に調査を重ね、この点を究明したい。